



# STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011 推進ニュース

## — 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

**新方針「介護ウェーブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!**

**「これ以上の負担増は困る」「利用者の声を国会に届けてください」  
11月11日「介護の日」に各地で宣伝・署名活動でアピール(山形)**



11月11日「介護の日」に、山形県民医連では、酒田市、鶴岡市、山形市の各地区で、「改正」介護保険の改善を求める街頭マイク宣伝・署名活動に介護職員を中心に取り組みました。

酒田市では、健友会が午前中のぞみ診療所がある中町通りで、午後は酒田健康生協と共同してコープこびあ酒田の店頭で宣伝・署名活動を行い延べ24名が参加しました。署名に協力していただいた方から、「介護保険法改正でヘルパーが利用できないと困る」「これ以上の負担増は困る」「利用者の声を国会に届けてください」といった声が寄せられ、署名も220筆が集まりました。

鶴岡市では、庄内医療生協、社会福祉法人山形虹の会が共同で、鶴岡協同の家こびあの店頭で取り組み、署名245筆が集まりました。また、市内の各在宅サービス事業所および特養・老健を訪問しての署名の取り組みをこれから予定しています。

山形市では、繁華街である七日町にて、山形県民医連はじめ5団体共同による街頭マイク宣伝および署名活動に取り組みました。山形県民医連の松柏会、やまがた保健生協、県連事務局、そして21老福連加盟の社会福祉法人やまがた市民福祉会の特養とかみ共生苑の職員、山形県社保協、山形県医労連、福祉保育労組山形地方本部の職員総勢20名が参加しました。冷たい雨の降る中での45分間の取り組みでしたが、通行中、買い物に訪れていた大勢の市民に訴えました。

山形県では、65歳以上の高齢者数の割合が27%で全国第5位、高齢者のいる世帯の割合は50%を超えて全国第1位となっています。そして5万人以上の高齢者が介護保険サービスを利用しています。このように家族介護が頼みの綱となっている実態の中で、誰もが必要な介護サービスが利用できることは、県民の切実な願いです。

「改正」介護保険法の来年4月からの実施に向けた準備が現在進められていますが、これまでの介護保険の問題はそのままで、さらに、介護予防サービスの切り下げなどの新たな問題が生まれています。こうした「改正」法の中身を私たちが学習するとともに、多くの人々に問題点を知らせましょう。そして誰もが必要な介護サービスを利用できるように、「改正」法の改善を求める国会請願に向けて、今後の「介護ウェーブ」に取り組みましょう。(山形県民医連介護・福祉NEWS 2011年11月16日より)



## 認知症の方が安心できる制度保障・まちづくりを！ 市民シンポジウム「介護の明日を考える」に250人が参加(北海道)

11月19日の夜、悪天候の中で開催されたシンポジウム「介護の明日を考える」には、市民・介護事業者・職員から250人の参加がありました。園田さん（信濃毎日新聞記者）は、約2年間77回にわたった連載をつうじて知った実態を広く読者に知らせようと実名報道にとりくんできた自らの経験にもとづいて講演。連載の最後に「要介護認定の見直し」「介護職へ教育と支援を」「公費負担引き上げ」など8つの提言をまとめるに至った現実をリアルにお話しされました。

利用者家族、ヘルパーの立場からは、「家族だけでとつても体も心ももたない現実に

ぶつかって、介護者の仲間同士でつながりあい励まし合っている」（男性介護者のつどい・小番さん）、  
「職員の人間らしいかかわりに支えられている」（かりふ家族会・保原さん）、「1回の訪問時間45分では、ヘルパーとして利用者に『安心』を届けられない。大変な制度『改定』だ」（めいえん・庄子さん）等、参加者の共感を呼ぶ発言がありました。最後に、石井秀夫さんが制度・介護報酬改定の動向を説明し、「なんでもありの『改定』に対して、現場から声を挙げていこう」と呼びかけました。

参加者から、「高齢者が安心できるまちづくりも重要。ネットワークを広げて、安心が不可能ではない社会をめざしましょう」、「社会は人とのつながりで成り立っていることを痛感しました。あいさつ、声かけ、周りを気にすることができるという当たり前のことが大切であると思いました」、「すべての立場から声を挙げてもらい、周りに理解してもらう必要があります。ラジオ、新聞にも投書していきたいと思います」、「社会や国の介護に対する認識がまだまだ不足している。認知症の人を支えるためには現在の制度では圧倒的に人員不足だと思った」、「少しこなす介護にあったと反省しました。基本にもとづいて地域での支え合いマップなどに一からかかわっていこうと考えました」等の感想が寄せられました。（介護に笑顔を！北海道連絡会 2011. 11. 21より）



## 低賃金・重労働と言われる介護の仕事だけどそれでも人が好き 11月11日「介護の日」宣伝・署名行動に50名を超える職員が参加(福岡)



部分には「人が好いと一と（博多弁で人が好きだという意味）」という言葉が書かれています。低賃金・重労働と言われる介護の仕事だけどそれでも人が好きだからという介護職員の思いが込められています。より良い介護保険制度をつくるため多くの人に介護現場の状況を伝え、より広範の人々と力をあわせ、運動を大きくしていきたいと思います。次回の宣伝行動は12月28日です。これからの福祉や介護を変えるにはみなさんの力や声が必要です。こころをひとつに立ち上がりましょう。改革の波をみんなで起こしましょう。（社会福祉法人ちどり福祉会介護ウェブニュース 2011年11月より）

11月11日に、『介護の日』宣伝行動を博多駅前で行いました。当日の参加者はちどり福祉会から14名、たたらから7名、県連、福岡医療団、NPO法人ひまわりの職員も合わせると50名を超える参加となりました。博多駅前のバス停の通り沿いに1列に広がり、道行く人に署名を訴えました。署名は1時間の行動でちどり福祉会50筆、全体で210筆集まりました。この日は、委員会でデザインを職員に募集してつくったピンク色のTシャツを着て宣伝行動を行いました。Tシャツの胸の

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp